



平成22年11月9日

各 位

会 社 名 蛇の目ミシン工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 眞壁 八郎
(コード番号 6445 東証第一部)
問合せ先 常務取締役経営企画本部長 萩原 次郎
(TEL 042-661-3071)

中期経営計画「JANOME EVOLUTION 2012」の策定 に関するお知らせ

当社は「収益改善計画」の遂行により築き上げた収益構造の維持・強化を図りつつ、成長分野への経営資源の重点投入により、収益重視のグループ経営と企業力の強化を目指し、平成23年3月期を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「JANOME EVOLUTION 2012」を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 本中期経営計画の骨子

- 成長が期待できる事業・市場への経営資源の重点注力
- 製造コストの更なる削減による価格競争力の強化と収益改善
- 市場ニーズを反映した製品の開発スピードアップ
- 財務体質の強化と企業価値向上

2. 主な施策

《家庭用機器事業（海外）》

- ・ 欧米市場におけるディーラー販売強化による収益改善
- ・ 南米統括拠点新設による南米市場の販売倍増
- ・ 戦略機種投入による新興国市場での販売拡大

《家庭用機器事業（国内）》

- ・ 代理店への販売促進支援、機種整備による代理店経由販売の拡大
- ・ 訪問販売の縮小に対応した支店統廃合とオーナー店制度の見直し

《産業機器事業》

- ・ 中国現地拠点設置によるアジア市場での販売拡大

- ・低価格エレクトロプレス（J P-S）と、廉価版卓上ロボットの市場投入による販売拡大とジャノメブランド産業機器製品の地位確立

《生産部門》

- ・グローバルな戦略的部品調達による調達部品コスト低減と価格競争力強化
- ・各生産拠点の役割の明確化と生産拠点の再構築
- ・ミシンの機種数の絞込みによる、生産効率アップ、在庫・管理コストの削減

《開発部門》

- ・マーケティング部門との綿密な連携による市場ニーズの把握と、それに対応した製品開発
- ・開発スピードアップに向け、開発部門の充実と開発の絞込み

《管理部門》

- ・業務効率向上へ向け、重複業務の集約とITシステムの再構築
- ・IFRSの完全適用に向けた対応

3. 数値目標

◎連結計数

| | 2010年3月期 (実績) | 2013年3月期 (目標) | 10/3期比 |
|---------|------------------|------------------|--------|
| 売上高 | 357億円 | 420億円 | 117.6% |
| 営業利益 | 13億円 | 35億円 | 269.2% |
| (営業利益率) | 3.7% | 8.3% | +4.6p |
| 経常利益 | 10億円 | 32億円 | 320.0% |
| (経常利益率) | 2.6% | 7.6% | +5.0p |

◎主な財務計数

| | 2010年3月期 (実績) | 2013年3月期 (目標) | 10/3期比 |
|---------|------------------|------------------|--------|
| 有利子負債 | 211億円 | 157億円 | 74.5% |
| D/E レシオ | 1.6 | 0.9 | |
| ROA | 1.9% | 6.7% | +4.8p |
| ROE | 7.0% | 19.8% | +12.8p |

以上

中期経営計画 (JANOME EVOLUTION 2012) 2010年度～2012年度

- グローバルな競争を勝ち抜くための
企業力の強化を目指して —

2010年11月

蛇の目マシン工業株式会社

目次

| | | | |
|----|--------------------|-------|----|
| 1. | 中期経営計画策定の背景 | | 3 |
| 2. | 基本方針および骨子 | | 4 |
| 3. | 損益計画 | | 6 |
| 4. | 重点施策 | | |
| | (1) 家庭用機器事業(海外ミシン) | | 7 |
| | (2) 家庭用機器事業(国内) | | 8 |
| | (3) 産業機器事業 | | 9 |
| | (4) 生産部門 | | 10 |
| | (5) 開発部門 | | 11 |
| | (6) 財務体質の改善 | | 12 |
| 5. | 目標係数(参考資料) | | 13 |

1. 中期経営計画策定の背景

《市場環境》

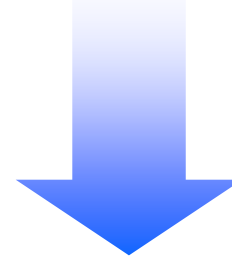
- ・2007年8月のサブプライム問題の発生、並びに2008年9月のリーマンショックを契機とする世界的不況



- ・新興国経済がいち早く成長基調に戻り、主要先進諸国も緩やかながらも、景気回復基調

《今後の見通し》

- ・今後の世界経済の見通しは、為替動向、厳しい雇用情勢の継続等で、まだまだ、不透明な状況が続き、グローバルな競争が激化



10年後のあるべきジャノメの姿を想定しつつ、
永続的な成長を目指し、競争を勝ち抜く

『中期経営計画 (JANOME EVOLUTION 2012) の策定』

2. 基本方針および骨子①

『中期経営計画(JANOME EVOLUTION 2012)』の基本方針

収益力の高いグローバル企業を目指す

将来の成長事業に経営資源を集中し、採算性の低い事業は縮小又は撤退する



2. 基本方針および骨子②

強みのある分野の強化

家庭用機器事業（海外ミシン）

- ・ 重点市場への経営資源注力
- ・ 市場ニーズ適合製品の早期市場投入

産業機器事業

- ・ 事業の二本柱としての戦略の構築
- ・ 産業機器市場におけるジャノメシェアの拡大

- ① 成長分野への経営資源の重点投入
- ② 調達部品コスト、製造コスト低減による価格競争力強化
- ③ 市場ニーズを先取りした製品の開発と開発スピードアップ
- ④ 連結累損の一掃と早期復配体制構築

生産・開発部門

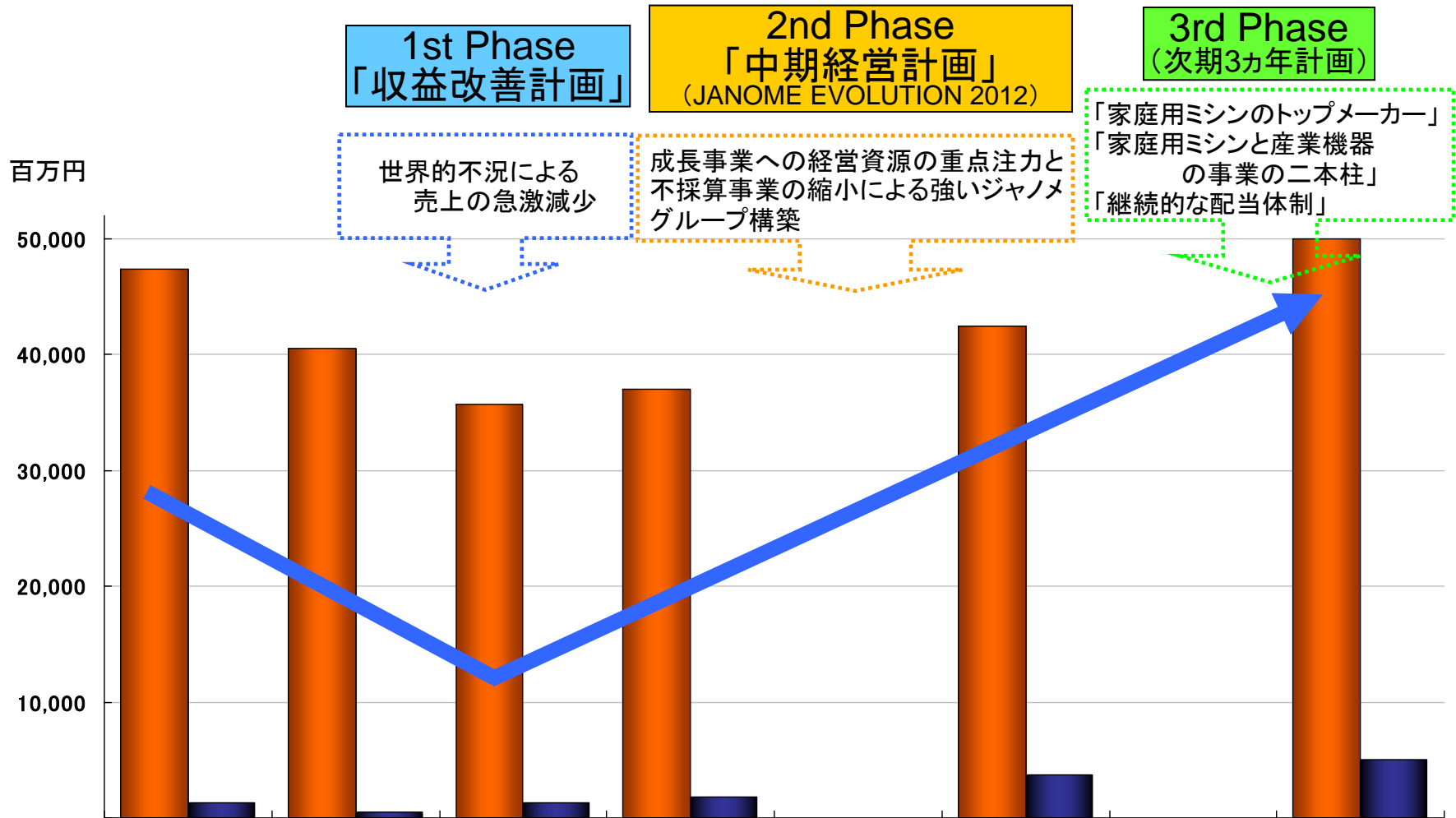
- ・ 製造コスト削減、価格競争力強化
- ・ 製品開発のスピードアップ

家庭用機器事業（国内）

- ・ 訪問販売縮小に対応した支店網の再構築
- ・ 多様化する販売形態への対応

企業としての永続的成長

3. 損益計画



| | 2008年3月期 実績 | 2009年3月期 実績 | 2010年3月期 実績 | 2011年3月期 見込 | 2013年3月期 計画 | 2016年3月期 目標 |
|--------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| ■ 売上高 | 47,421 | 40,487 | 35,746 | 37,000 | 42,000 | 50,000 |
| ■ 営業利益 | 1,312 | 459 | 1,342 | 1,800 | 3,500 | 5,000 |
| 営業利益率 | 2.8% | 1.1% | 3.8% | 4.9% | 8.3% | 10.0% |

4-(1) 重点施策：家庭用機器事業（海外ミシン）

高付加価値製品の販売が主力の 欧米ディーラー向販売の強化・拡大

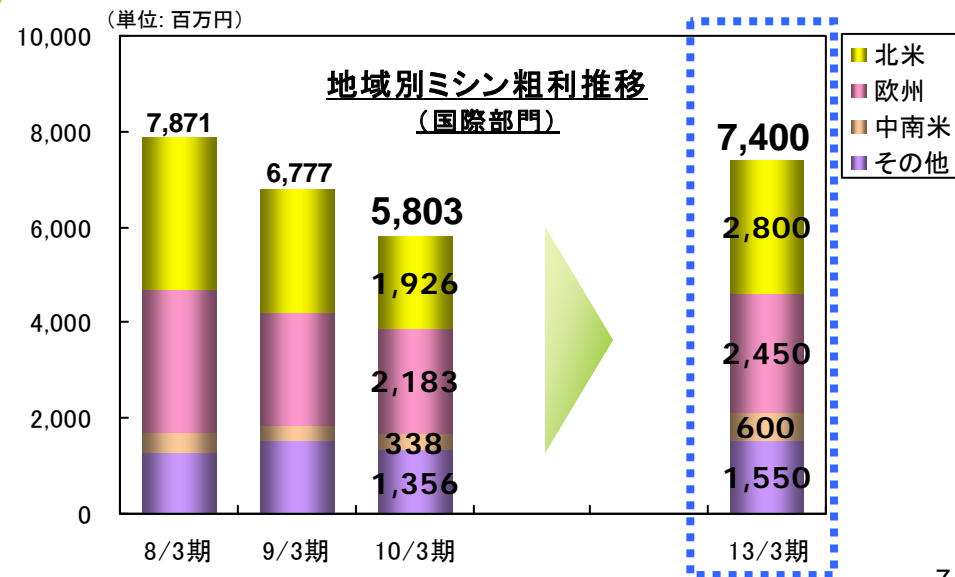
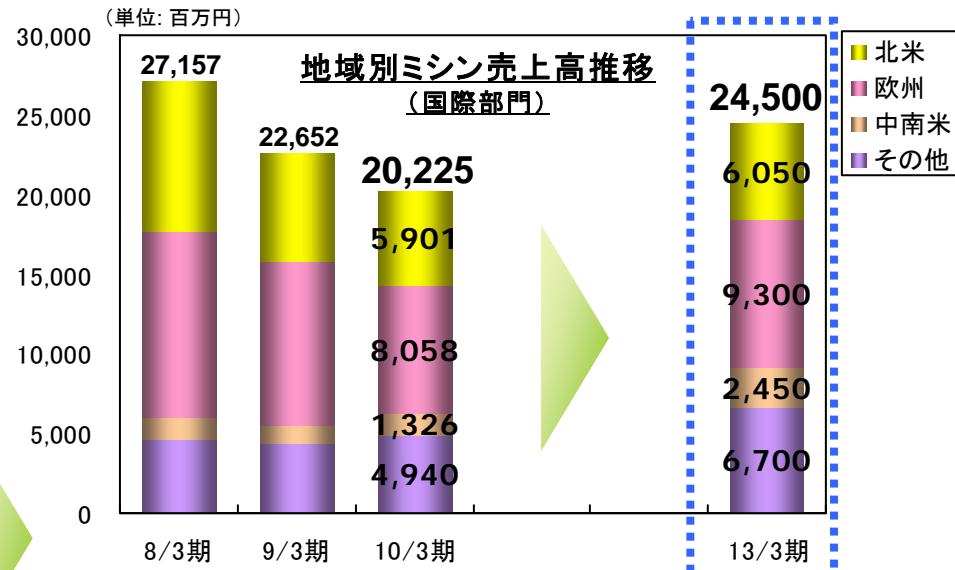
- 主力機種を共通プラットフォーム化、新製品を魅力的な価格でタイムリーに供給
- マーケティング機能を強化し、市場ニーズを効率的に吸い上げ開発に反映

潜在需要の大きい新興市場でのミシン 販売の飛躍的拡大

- 南米統括拠点を新設し、販売強化
- インドでは現地代理店と共同し、販売拡大
- 新興市場向け戦略機種を開発

自社ブランドの販売比率を高め 海外市場での収益力強化

- 採算の低い分野の整理、見直し



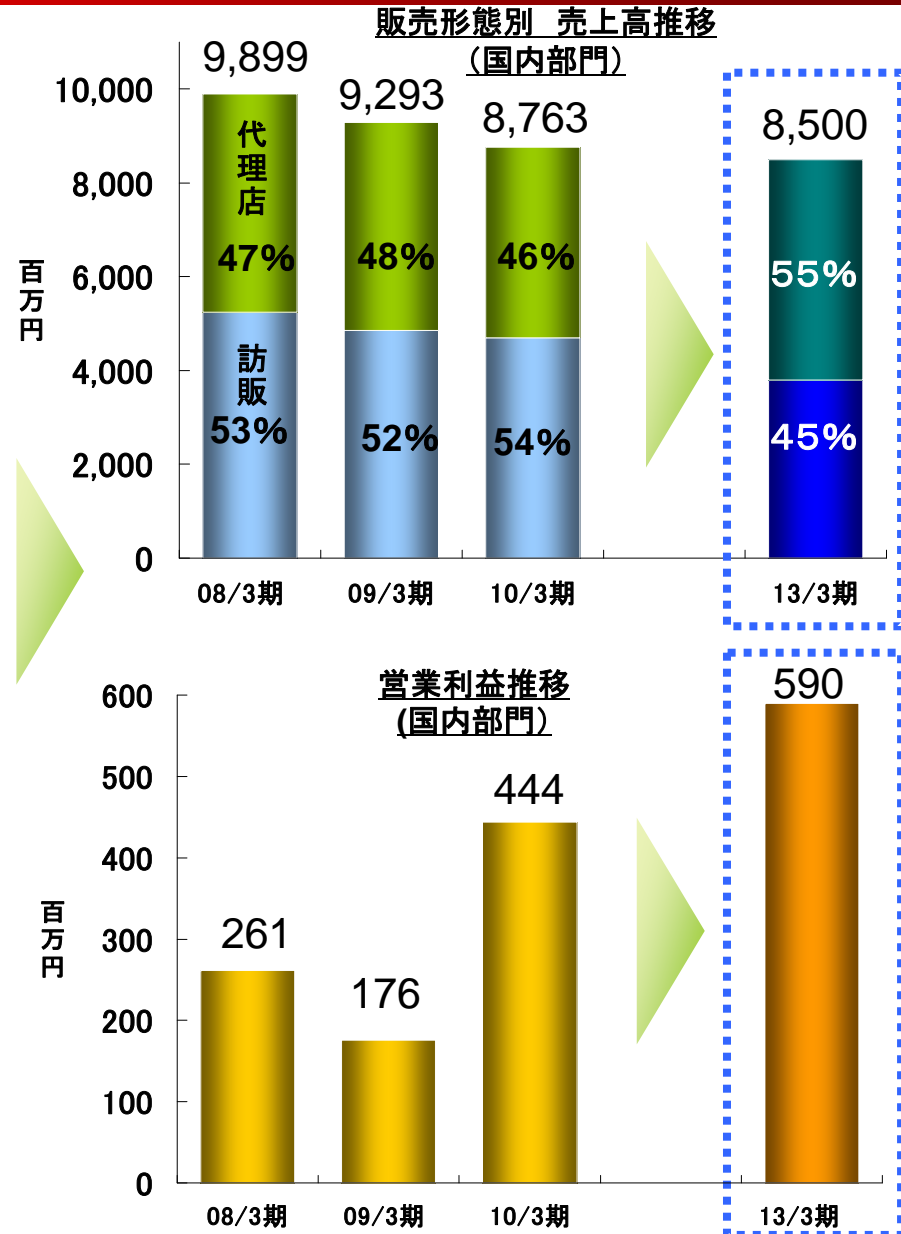
4-(2) 重点施策：家庭用機器事業（国内）

訪問販売事業の縮小による 国内支店網の再構築

- 国内支店の整理統合による経営の効率化
- オーナー店制度の見直しと優秀な営業スタッフの独立支援

多様化している販売形態への対応

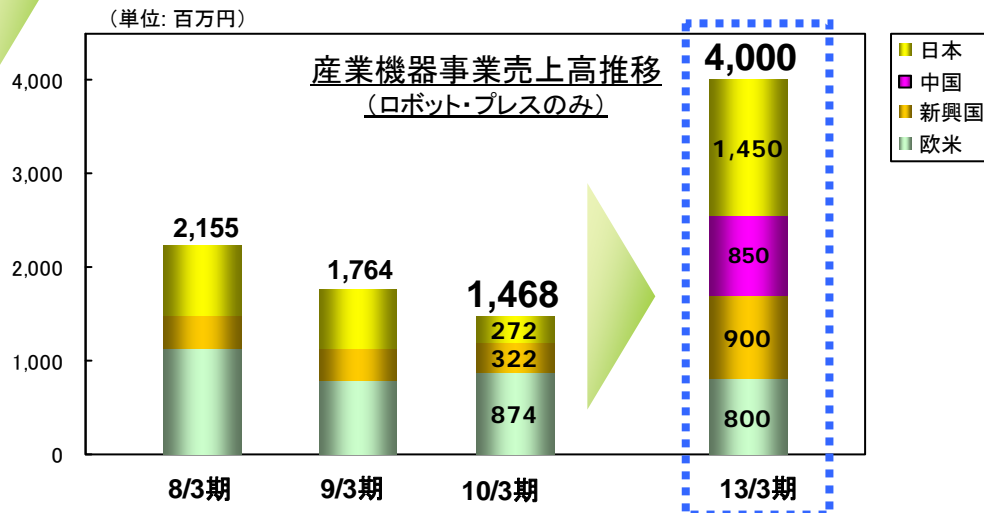
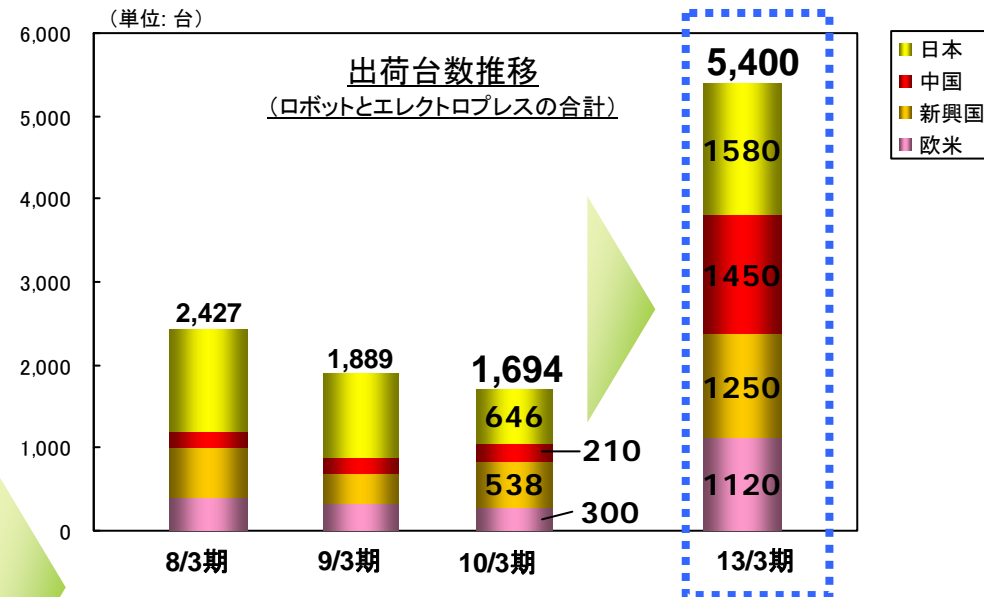
- 国内ミシン市場の変化に即した代理店向け機種種の整備と強化
- 手芸量販店向け支援体制の充実
- JFC(ジャノメ・ファミリー・クラブ)を基軸とした代理店網の拡充



4-(3) 重点施策：産業機器事業(ロボット・エレクトロプレス)

ロボット・エレクトロプレスの 販売金額を大幅増加

- 中国に現地拠点を設立、中国向け営業統括と技術支援
- 廉価版卓上ロボットを投入、価格競争が激しい新興国でのシェア拡大
- 設備組込型エレクトロプレスを投入、販売台数の拡大



価格競争力の強化

- 調達部品コストの削減を最重要課題と位置付け、購買戦略プロジェクトチームを新設
- ミシンの機種数を見直し、生産効率アップ、在庫削減、管理コスト削減

生産拠点の再構築

- 各生産拠点の役割の厳格化と間接部門の簡素化を推進

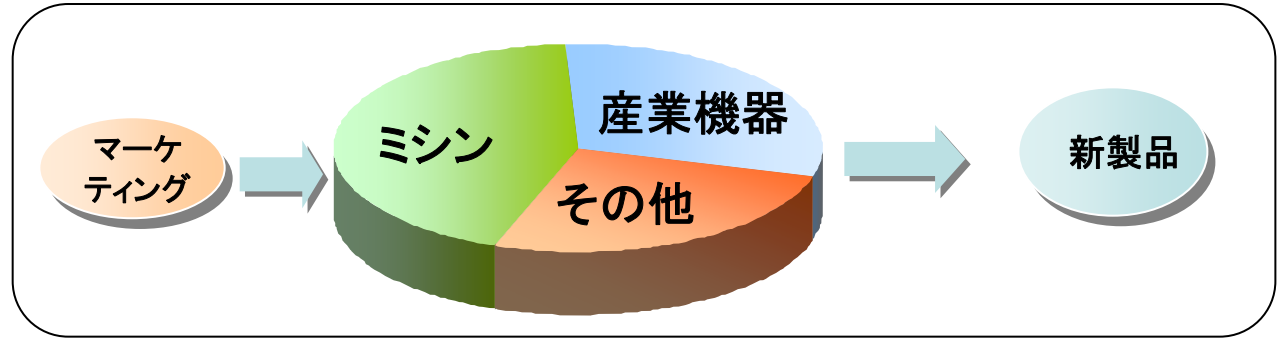


開発部門の強化と 開発スピードアップ

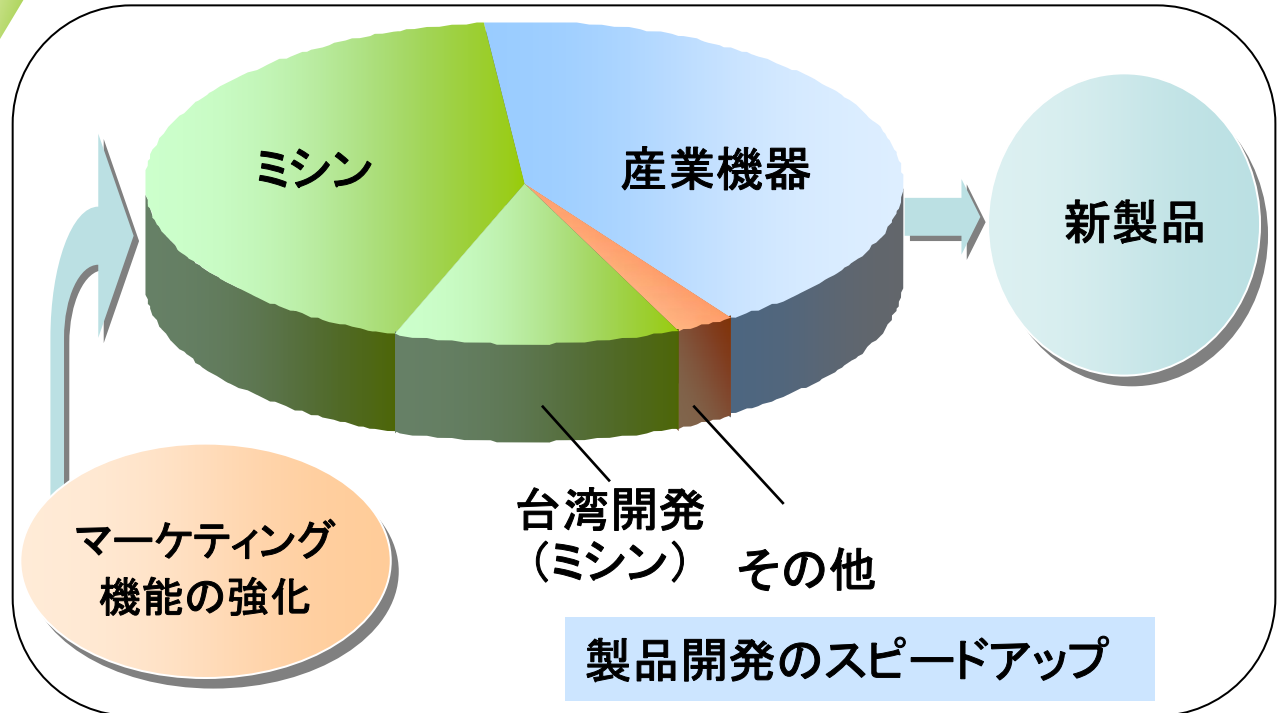
- 選択と集中により
マシンと産業機器の
開発に重点注力
- 台湾にマシンのマイ
ナーチェンジモデル
の開発を一部移管

市場ニーズを反映 した製品の開発

- マーケティング力の
強化と開発製品への
反映



開発部門の強化と
開発テーマの選択と集中



4-(6) 財務体質の改善

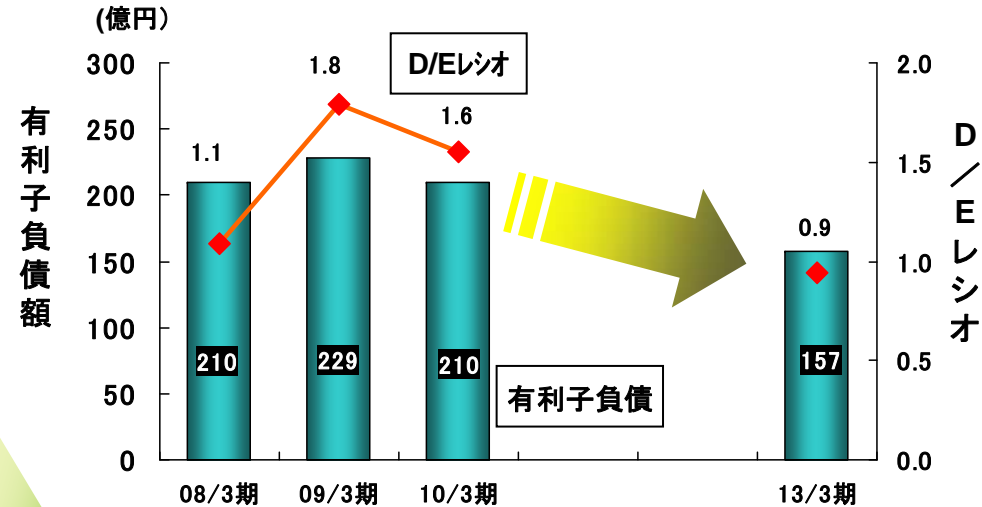
財務基盤の強化

- 有利子負債額の削減
- 資産の効率的活用とB/S経営指標の改善
- 連結累損の解消

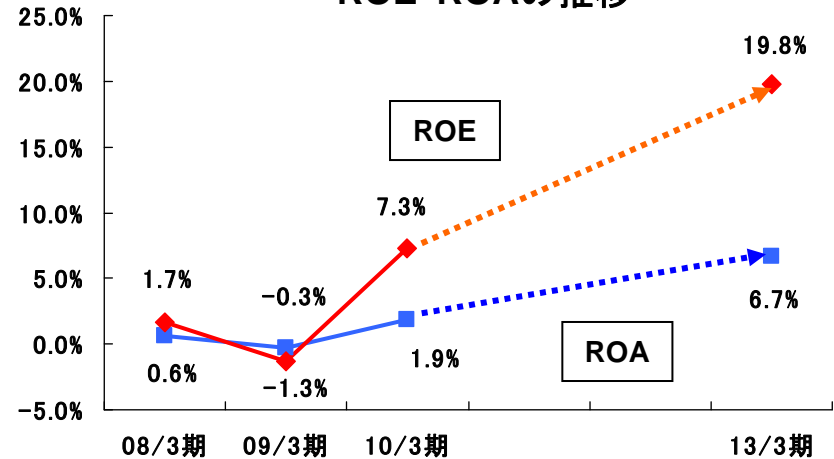


継続的配当体制への道筋作り

有利子負債額とD/Eレシオの推移

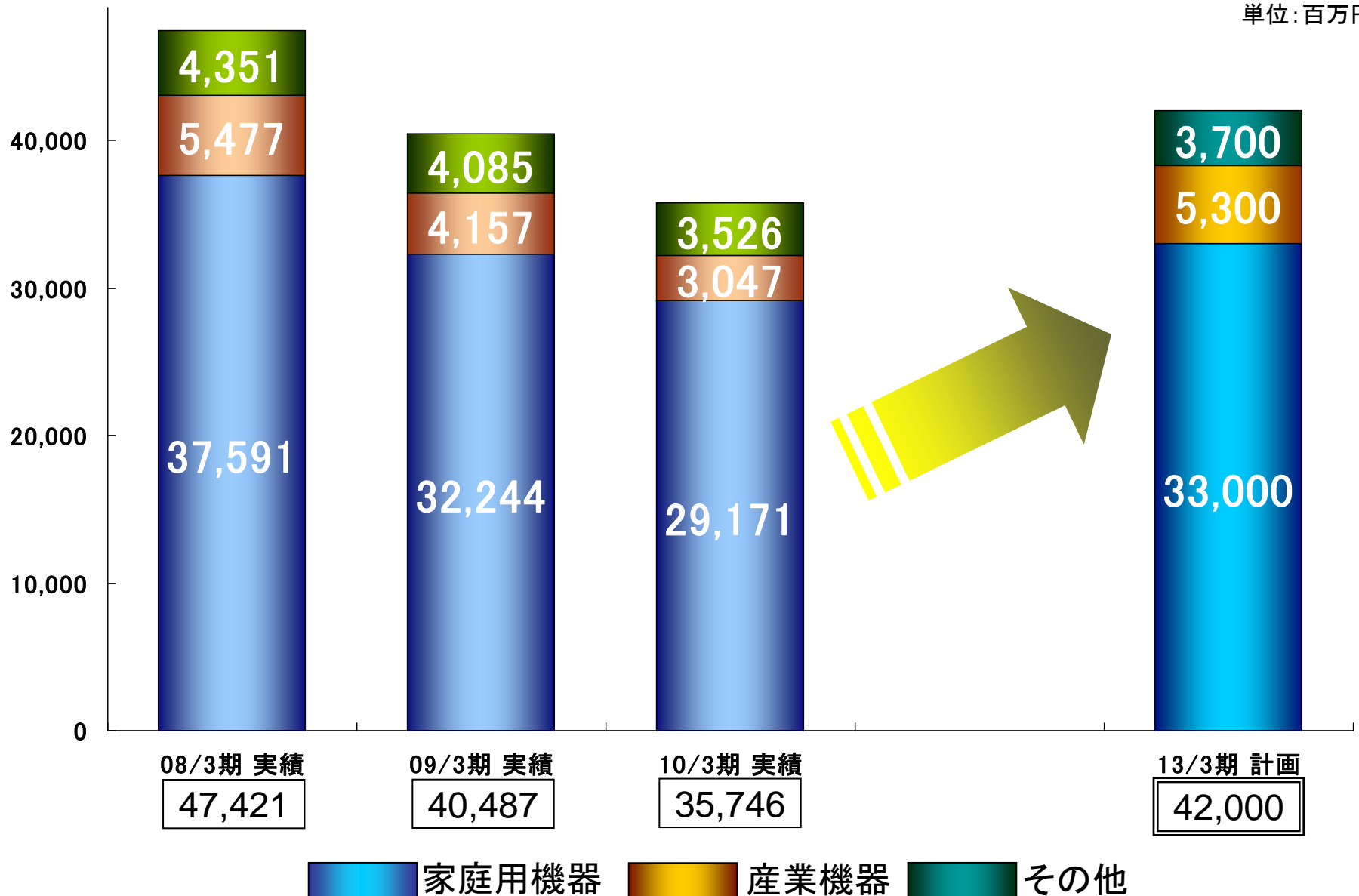


ROE・ROAの推移



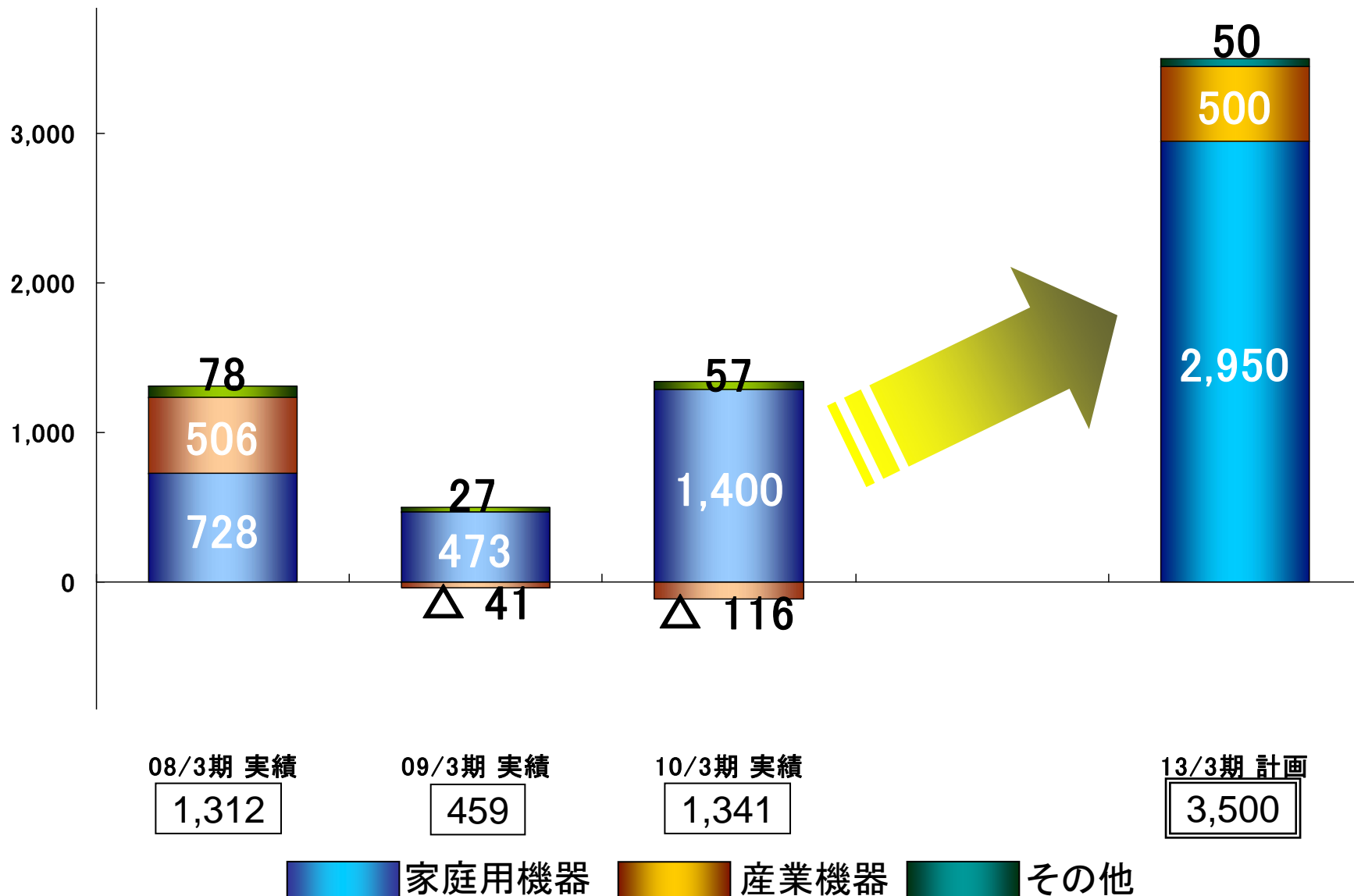
(参考資料-1) 事業セグメント別売上高計画

単位: 百万円



(参考資料-2) 事業セグメント別営業利益計画

単位: 百万円



(参考資料-3) 連結係数

| | 10/3期 | 11/3期 | 12/3期 | 13/3期 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 売上高 | 35,746百万円 | 37,000百万円 | 38,000百万円 | 42,000百万円 |
| 営業利益 | 1,342百万円 | 1,800百万円 | 2,200百万円 | 3,500百万円 |
| 営業利益率 | 3.8% | 4.9% | 6.2% | 8.3% |
| 経常利益 | 958百万円 | 1,200百万円 | 1,800百万円 | 3,200百万円 |
| 経常利益率 | 2.6% | 3.2% | 4.7% | 7.6% |

(*) 12/3期、13/3期為替レート85円/米ドルを想定

(参考資料-4)財務係数

| | 10/3期 | 11/3期 | 12/3期 | 13/3期 |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 有利子負債 | 21,073百万円 | 17,400百万円 | 16,600百万円 | 15,700百万円 |
| D/Eレシオ (負債資本倍率) | 1.6 | 1.2 | 1.1 | 0.9 |
| 債務償還年数 | 7.8年 | 6.1年 | 5.6年 | 4.4年 |
| インタレストカバレッジレシオ | 7.1 | 4.6 | 5.4 | 5.6 |
| 自己資本 | 13,060百万円 | 13,800百万円 | 14,400百万円 | 16,100百万円 |
| 自己資本比率 | 25.9% | 29.3% | 30.4% | 34.7% |
| ROA (総資産経常利益率) | 1.9% | 3.7% | 3.8% | 6.7% |
| ROE (自己資本経常利益率) | 7.3% | 8.6% | 12.5% | 19.8% |
| 棚卸資産回転期間 | 1.9月 | 1.9月 | 1.8月 | 1.7月 |

本資料で記述されている当社の現在の計画、戦略、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断、予想したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な要因により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあります。